

**取扱説明書**

**ご使用前に必ずお読み下さい。**

製品仕様はHP上の仕様書を参照下さい。

URL: <http://www.dyden.jp/network/>

**安全にご使用いただくために(使用上の一般的な注意事項)**

**指定用途以外には使わないで下さい!**

100/1000BASE-T の光変換以外の用途にはお使いにならないで下さい。

また仕様項目を超えない範囲でお使い下さい。

**分解しないで下さい!**

取付けあるカバー類は取り外さないで下さい。分解された場合は一切の保証をいたしません。

**製品は大事に扱ってください!**

振って落としたり、ぶついたりすると製品の性能を低下させますので十分にご注意ください。

**異常が起きたら直ちに使用中止!**

使用上、煙・臭い・発火などの異常に気がついたら場合には、直ちに使用をやめ点検・修理に出して下さい。

**条例に従って産業廃棄物として廃棄して下さい!**

本装置を廃棄するときは、地方自治体の条例に従って産業廃棄物として処理して下さい。

**電波障害自主規制について!**

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

**本製品のご使用にあたって!**

本製品は、人命に關わる場合(医療、航空、原子力、軍事等)や高度な安全性や信頼性を必要とするシステムへの使用または機器組み込みの使用を想定した設計および製造は行っておりません。従って、これらのシステムへの使用や機器に組み込んで本製品が使用されることによって、お客様もしくは第三者に損害が生じても、かかる損害が直接的、間接的または付随的なものであるかどうかにかかわらず、弊社は一切の責任を負いません。お客様のおきてまて、このようなシステムへの使用または機器に組み込んで使用する場合には、使用環境や条件等に充分配慮し、システムの冗長化などによる故障対策や、誤動作防止対策などの安全性・信頼性の向上対策を必ずご注意願います。

大電株式会社 弊社が製品に貼付する取扱説明書は環境に配慮したインクを使用しております。

**2: LP (Loopback Mode)**

ループバック試験の設定を行います。  
 [LP]が ON の場合は、ループバック試験を実施します。  
 試験結果については「STATUS」LED にて確認いただけます。  
 (詳細は 2 概要【ループバック試験機能について】参照)

**スイッチの設定と動作モード (側面スイッチ)**

**\*R.State (Remote MC State Mode)**

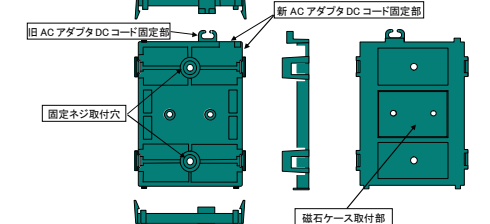
表示 LED の設定を行います(ON/OFF の 3 状態となります)。  
 [R.State]が ON の場合はリモート側 MC(端末側)、ON1 の場合はリモート側 MC (中継器)の状態を表示します。OFF の場合は本装置の状態を表示します。  
 (詳細は 2 概要【リモート監視機能について】参照)

**スイッチの設定と動作モード (背面スイッチ)**

- 1: 1000M/100M (1000Mbps/100Mbps)  
 MC の通信速度設定を行います (UTP ポート/光ポート共通)。  
 対向器がアドル信号を受信しない限りは、信号の送信をしないような機器 (DN-2600 シーズ) をリンク動作設定で使用する場合などはリンクアップできません。
- 2: Auto/FIX  
 100M 設定時に UTP 側の通信速度を Auto または 100Mbps 固定 (全二重) に設定します。  
 [1000M/100M]で 100M にしないと有効になりません。
- 4: OAM/ OFF  
 OAM 有効/無効設定を行います。  
 OAM が有効の場合は、1700 または 6700 を監視できます。

※背面スイッチの 3 は使用できません。

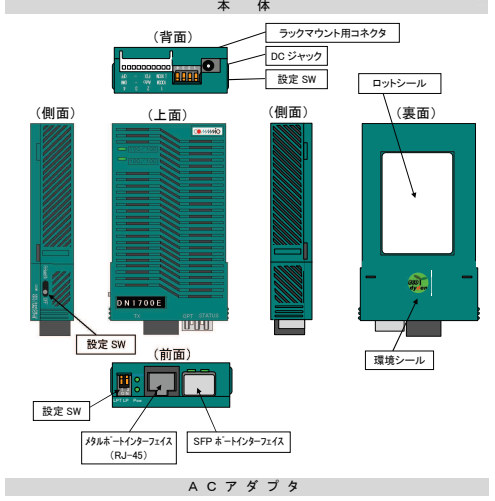
**固定用ホルダ**



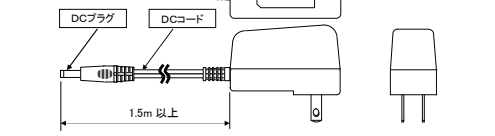
- 警告  
 ・交流 100~240V 以外で使用しないで下さい。  
 指定電圧以外で使用するすると火災や感電、故障の原因となります。
- ・ACアダプタは専用のものを使用して下さい。  
 火災や感電、故障の原因となります。
- ・ACアダプタは AC センターに確実に差し込んで下さい。  
 ACアダプタの刃に金属などが触れると火災や感電、故障の原因となります。
- ・水につけたり、水をかけたりしないで下さい。  
 漏電による火災や感電、故障の原因となります。
- ・浴室や加湿器のそばなど湿度の高い所では使用しないで下さい。  
 漏電による火災や感電、故障の原因となります。
- ・専用 AC アダプタと他社の機器とを接続しないで下さい。  
 機器の故障及び火災や感電、故障の原因となります。
- ・静電気注意!  
 本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。静電気による故障・誤動作を防ぐため、製品に触れる前には除電を行って下さい。

- 注意  
 ・ACアダプタを抜くときは、アダプタ本体を持って抜いて下さい。  
 電源コードをつまみ製品とコードの接触が発生し火災や感電の原因となることがあります。
- ・濡れた手で製品に触れないで下さい。  
 故障や感電の原因となることがあります。
- ・本機をストーブなどの熱器具のそばに置かないで下さい。  
 ケーブルの被覆が溶けたり火災や感電の原因となることがあります。
- ・本機を直射日光の当たるとる所や温度の高い所で使用しないで下さい。  
 内部の温度が上がり火災や故障の原因となることがあります。
- ・放熱スリットや隙間に針金や金属物などの異物を入れないで下さい。  
 内部に触れ感電やけが、故障の原因となることがあります。
- ・放熱スリットを塞がしないで下さい。  
 スリットを塞ぐと内部に熱がこもって故障の原因となります。
- ・本装置をほこりが多い所や油煙のあたる所で使用しないで下さい。  
 火災や故障の原因となることがあります。
- ・本装置を不安定な場所または振動や衝撃の多い場所に置かないで下さい。  
 落下などにより、けがや故障の原因となることがあります。
- ・本装置はクラス 1 レーザ製品です。(対象: SFP モジュール)  
 SM ファイバ用 SFP や 1000BASE-SX 用 SFP はクラス 1 レーザを使用しており、クラス 1 レーザは合理的に予知可能な運転条件で安全であるレーザです。
- ・光コネクタ清掃のお願い。  
 本装置は光ファイバとの接続に光コネクタを経由して光信号を伝送しています。光コネクタが埃等で汚れていた場合、正常に光信号を伝送できないだけでなく、光モジュール内に汚れが付着し、簡単に清掃ができなくなりますので必ず光コネクタ清掃後に接続頂くをお願いします。

**1. 装置各部の説明/付属品**

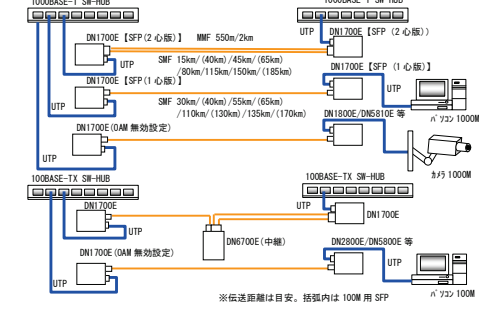


**A C アダプタ**



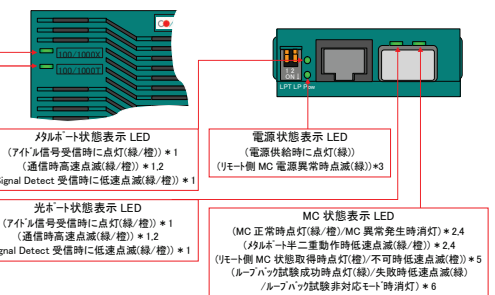
**2. 概要**

本製品は SFP による 100BASE-FX または 1000BASE-X の光信号を伝送するメディアコンバータです。なお、1000BASE-T、10/100BASE-TX 用の SFP は使用できません。ネットワークの通信媒体であるツイストペア線を光に変換することで屋外へのリンクセグメントの配線を可能にします。



【リンク運動機能について】  
 本装置にはリンク運動(以下LPT)機能があります。LPT機能とは、メディアコンバータ(以下MC)で受信のリンク断を検出した場合にMCの送信をOFFにする機能です。この機能により、MCを挟んで対向するSW-HUB間等の伝送路が切断されたときなど、両方のSW-HUBが伝送路の切断を認識できます。例えばSW-HUBのマルチポートランキング機能を伝送路のバックアップとして使う場合、この機能がないと断線時などに正常な伝送ができない場合があります。OAM有効時のLPT機能は、光側の対向機器が1700E又は6700E端末設定の場合のみ台接続にて動作します(6700E中継設定や6800Eシリーズ/6810Eシリーズが間に入っても動作します)。OAM無効時のLPT機能は、他MCとの接続が可能です。  
 ※製品はリンクアップしない場合があります。  
 ※OAM有効時は大電製の1700E/6700E以外のMCとのLPTは正常に動作いたしません。  
 ※リンク運動設定でBack To Back接続や、光⇄UTP⇄光接続しリンクアップしない場合でもリンクアップして使用できません。  
 ※あらかじめ相互接続試験を行うことをお勧めします。

**表示 L E D**



- \*1: 1000M 動作時に緑、100M 動作時に橙となります(ただし上面 LED [100/1000T, 100/1000X] は動作速度によらず緑となります)。
- \*2: R.State ON または R.State ON1 時には対応いたしません。
- \*3: 年単位からの電源異常⇒点灯・消灯⇒2.1. 端末側からの電源異常⇒点灯・消灯⇒1:2 となります。
- \*4: OAM 有効時に緑、OAM 無効時に橙となります。
- \*5: R.State ON または R.State ON1 時のみの表示となります。R.State ON または R.State ON1 時は、リモート側 MC 状態取得時に点灯し、リモート側 MC 状態取得不可時に低速度点滅します。※光ポートがリンクアップ時および光側対向機器が監視対象機器でない場合は、低速度点滅となります。ただし、LPT 有効設定にて本装置がリンクアップしない場合も、監視 MC まで経路が正常に繋がってはいれば状態取得できたため点灯します。
- \*6: [LP]スイッチによるループバック試験時のみの表示となります。[LP]スイッチを OFF にするまで表示します。  
 ※[LP]スイッチ ON 中は、R.State の On または On1 やマルチポート半二重動作時の LED 表示よりもループバック試験結果の表示が優先されます。

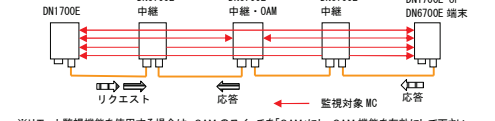
**設定 S W**

**スイッチの設定と動作モード (前面スイッチ)**

- 1: LPT (Link Pass Through Mode)  
 リンク運動機能の設定を行います。  
 [LPT]が ON の場合には、UTP 側もしくは光側のリンク断が発生した際に、他方へのアイドル信号送信を停止します。(詳細は 2 概要【リンク運動機能について】参照)  
 [LPT]が OFF の場合は、UTP 側と光側は独立してリンクを確立します。

**【リモート監視機能について】**

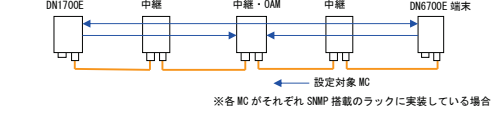
本装置にはリモート監視機能があります。リモート監視機能とは、管理パケット(OAM)のやり取りによって、光側対向 MC の速度設定状態や動作状態、リンク状態を監視する機能です。各状態は側面 SW の R-StatusSW を ON にすることで、本装置の LED の確認が可能となります。



- ※リモート監視機能を使用する場合は、OAM のスイッチを「OAM」にし、OAM 機能を有効にしてください。
- ※リモート監視機能の対象は、1700E および 6700E のみとなります。6800E シリーズ/6810E シリーズが間に入っても監視機能は有効です。ただし、6700E の設定が中継器の場合に OAM 機能を OFF にしているとは監視対象にはなりません(詳細については 6700E の取扱説明書を参照下さい)。
- ※OAM はデータフレーム間に入るまで通常の通信には影響を与えません。UTP 側の対向機器へ OAM が濡れることありません(OAM は大電独自のハブです)。

**【リモート設定機能について】**

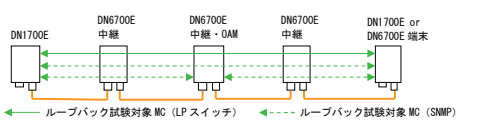
本装置を SNMP 搭載のラック装置にて、光側対向 MC の設定も可能です。



- ※リモート設定機能を使用する場合は、OAM のスイッチを「OAM」にし、OAM 機能を有効にしてください。
- ※リモート設定機能の対象は、1700E および 6700E のみとなります。6800E シリーズ/6810E シリーズが間に入っていると設定機能は有効です。ただし、6700E の設定が中継器の場合に OAM 機能を OFF にしているとは設定はできません(詳細については 6700E の取扱説明書を参照下さい)。

### 【ルーバック試験機能について】

本装置にはルーバック試験機能があります。ルーバック試験機能とは、光側でのテストバケツの伝送により光伝送路の異常がないかを確認する機能です。ルーバック ON 設定時に一度だけルーバック試験を実施します。試験結果については設定が OFF になるまで保持され、LED で表示します。



※ルーバック試験機能を使用する場合は、OAMのスイッチを「OAM」にし、OAM機能を有効に下さい。  
※ルーバック試験の対象は、1700Eおよび6700E端末のみとなります。6800Eシリーズ/6810Eシリーズが間にあってルーバック試験機能は有効です。

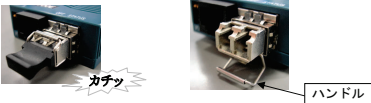
※LPT有効時にリンクダウン状態(Signal Detect)でも伝送路が繋がっていればルーバック試験可能です。  
※SNMPでは6700E中継(OAM ON)宛も可能です(詳細についてはラックの取扱説明書を参照下さい)。  
※ルーバック試験はOAMにて行いますので通常の運用に影響を与えません。

※SNMPでのリモート監視・設定およびルーバック試験機能の設定は、SNMPⅢ(FirmV2.0以降)での対応となり、SNMPⅡ、SNMPⅢ(FirmV1.0)では非対応となります。

### 3. 種々の接続

#### SFPモジュールの接続

- ①SFPをスロットに差込み「カチッ」と音がするまで確実に差込んで下さい。  
なお、差込み際にはハンドルを上げた状態で差込んで下さい。
- ②SFPモジュールを取外すときは、まず光ケーブルを取外して下さい。
- ③SFPのハンドルを下げてスロットへの固定を解除します。
- ④SFP本体を持って引抜いて下さい。



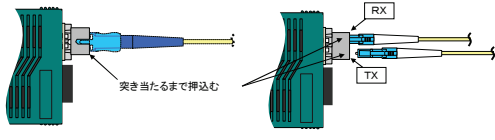
注: SFPモジュールは高温になっている場合がありますので作業時は十分注意して下さい。

### 光コネクタの接続

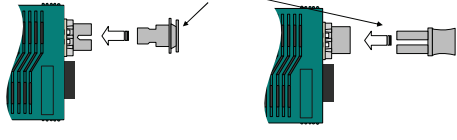
当社ラインナップ品 SFP に適用します。

#### 【各シリーズ共通注意事項】

- ①光ファイバにねじれや無理な張力が加わらないよう注意し、ファイバの曲げ半径を30mm以上確保して下さい。
- ②SC(LO)コネクタがロックされていることを確認して下さい。  
※SC(LO)コネクタが突き当たると奥に差込んで下さい。



※光コネクタを接続していない時は、ゴミなどが入らないよう必ず SFP 付属のゴムキャップを取付けて下さい。



【OPTポートが1心用(SC/LOコネクタ)の場合】

対向側に同じシリーズの波長違いが接続されていることを確認し、本体にSC(LO)コネクタを接続して下さい。  
※接続可能なSFPの型番等の情報に関しては当社SFPの仕様書を参照下さい。

#### 【OPTポートが2心用(LCコネクタ)の場合】

対向側に規格準拠機種(もしくは相互接続性のあるシリーズの機器)が接続されていることを確認し、本体にLCコネクタを接続して下さい。  
※接続可能なSFPの型番等の情報に関しては当社SFPの仕様書を参照下さい。  
※対向側のTX部と本体側のRX(本体右側部)、対向側のRX部と本体側のTX(本体左側部)と接続して下さい。

※LCコネクタを取外す際には、レバーロックのつまみ部を押した状態でコネクタを引抜いて下さい。ロックされた状態で無理に引抜くと、コネクタや装置を破損する恐れがあります。



### 【光側対向接続例】

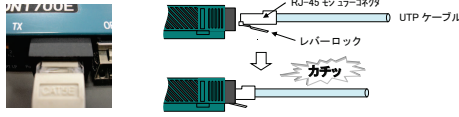
- <リモート監視機能未使用時(OAM有効設定時)>
  - ・100BASE-X SFP 使用時: DN1700E(100BASE-X SFP 使用)/OAM有効設定
  - ・DN6700E(100BASE-X SFP 使用)
  - ・※DN810Eシリーズ(GigaEthernetモード)が間にあっても問題ありません。
- ・100BASE-X SFP 使用時: DN1700E(100BASE-X SFP 使用/OAM有効設定)
- ・DN6700E(100BASE-X SFP 使用)
- ・※DN8900Eシリーズ(FastEthernetモード)が間にあっても問題ありません。

- <リモート監視機能未使用時(OAM無効設定時)>
  - ・100BASE-X SFP 使用時: DN65500E(100BASE-X SFP 使用)
  - ・DN1800Eシリーズ、DN5810Eシリーズ、DN6810Eシリーズ(GigaEthernetモード)
- ・100BASE-X SFP 使用時: DN5250E(100BASE-X SFP 使用)
- ・DN2800Eシリーズ、DN5800Eシリーズ、DN6800Eシリーズ(FastEthernetモード)

### UTPケーブルの接続

RJ-45 モジュラーコネクタを取付けた UTP ケーブルを、本体のモジュラージャックに接続して下さい。

※モジュラープラグのレバーロックがカチッと音がするまで確実に差込んで下さい。



※モジュラーコネクタを取外す際には、レバーロック部をモジュラーコネクタに押し当てた状態のままコネクタを引抜いて下さい。ロックされた状態で無理に引抜くと、モジュラーコネクタやメディアコンバータ本体を破損する恐れがあります。



### A C アダプタの接続

#### 【新 AC アダプタ(黒地に白文字シール/緑色 DC コード品)の場合】

- ①抜け防止を行う場合、固定用ホルダの背面内部(新 AC アダプタ DC コード固定部)に DC コードを引っ掛けて下さい。
- ②DC プラグを本体背面の DC ジャック部に接続します。
- ※DC プラグが入らなくなるまで押込んで下さい。

最後に電源プラグ(ACアダプタの本体部)を AC コンセントに確実に差込んで下さい。

※ACアダプタは専用のものをお使い下さい。

緑色 DC コードを本体 DC コード固定部に取付ける抜ける場合がありますので注意下さい。

### 設定時の注意

- ①100M時にUTP対向側の機器が固定設定(速度・モード)の場合には、必ず本装置も対向機器の速度・モードと同じになるよう固定設定にして下さい。
- ※設定が異なる場合には、リンクアップしなかったり、設定とは異なる速度・モードでリンクアップする可能性があります。(STATUS)LEDが盛滅(緑)時は本装置のUTPポートは半二重動作です。
- ②LPT設定時は対向接続したメディアコンバータの設定もLPT設定にして下さい。
- ※対向機器をLPT設定にしない限りリンクエラーを発生することができないため Link Aggregation 等のリンク集約で正常に動作しない可能性があります。

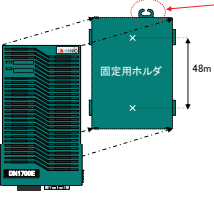
### ラックオプション(DN-HD12)搭載時の注意

本装置は専用サブラック(DN-HD12)に搭載するときは以下のような制限があります。  
以下の制限を守らないと故障の原因となります。  
・最大搭載数量は6台です。  
・DN-HD12への搭載箇所は上段のみです。  
・上段に本装置が搭載されている場合は下段には当社他製品は搭載できません。  
※DN-HD12およびSNMPユニットの取扱説明書をご確認ください。  
※環境対応サブラックオプション/DNHD12に取替える場合は上記の様な制限はありません。

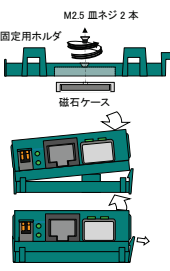
### 6. 装置の取付け

本装置は、ほこりや湿気が少なく直射日光の当たらない場所に設置して下さい。  
横置きで使用する場合には、落下の危険がない平らな場所に設置して下さい。  
壁掛けで使用する場合には、磁石ケースを取付けて壁面に固定して本装置を吊り下げます。  
磁石ケースを取付けたままネジ締めを行うと、固定用ホルダが変形することがあります。

#### 【本機固定時の下穴位置】



#### 【ネジ固定時の磁石ケース取外し】



※固定用ホルダに本体を取付ける場合は、固定ホルダの片側の爪に引っ掛けてから反対側を押込んで下さい。

※固定用ホルダから本体を取外す場合は、片側の爪(前後2箇所)を軽く開きながら本体を引抜いて下さい。

### 7. こんな時は

故障かなと思った場合には修理を依頼する前に確かめて下さい。

#### 【Pow LEDが点灯しない】

- 確認①: ACアダプタは専用のものを使用していますか?
- 確認②: ACアダプタの本体部(コンセント)にきちんと根元まで接続されていますか?
- 確認③: ACアダプタの DC プラグ部は MC 本体の DC ジャック部にきちんと根元まで接続されていますか?
- 確認④: 光側対向機器の電源が入っていますか? (Pow LED が点滅の場合)
- リモート側 MC の電源断を検出している状態です。リモート側 MC の電源をご確認ください。

#### 【TX LED が点灯しない】

- 確認①: モジュラーコネクタは確実にロックされていますか?
- 確認②: 接続相手機器の電源が入っていますか?
- 確認③: 接続相手の機器の設定は本装置の設定と合っていますか?
- 確認④: ケーブルは全て接続されていますか?  
リンク運動(LPT)設定時は UTP 側と光側が両方ともリンク確立の状態にならないとリンクアップしません。
- 確認⑤: 接続相手の機器の設定は「Autonegotiation」もしくは「100M・全二重」になっていますか?  
本装置は 100M 設定時は「100M・全二重」でも動作しませんが、Autonegotiation に対応していますが、ごくまれに 100M Half Duplex Mode 設定になる場合があります。その時は対向機器を 100M 全二重設定に変更して、再度モジュラーコネクタを差込みして下さい。また、100M 時も同時に本装置が 100M 全二重動作でリンクアップしなければ正常に使用できません(100M 時の全二重/半二重動作は Status LED で確認可能です)。

- 確認⑥: UTPケーブルが断線や異常損失を起こしていませんか?  
代わりにUTPケーブルで接続して下さい。
- 確認⑦: 伝送速度は正常ですか?  
対向機器から信号を受信していない Signal Detect 状態になっています。リンクアップできる状態になっていないため UTP ポートの状態および設定、UTPケーブルの接続状態をご確認ください。
- 確認⑧: R-State スイッチが OFF になっていますか?  
R-State ON 時はリモート側の状態を LED に出力します。

#### 【OPT LED が点灯しない】

- 確認①: SFP はきちんと根元まで接続されていますか?
- 確認②: 光コネクタの端面は汚損がないか確認しロッキングして下さい。  
コネクタの端面を清掃し、再度光コネクタを差込んで下さい。汚損した光コネクタを接続し、清掃を行っても改善しなかった場合には汚れが光シールド内に付着している可能性がありますので対向機器内の清掃を行って下さい(清掃が不可能な場合は一旦却却下さい)。
- 確認③: 接続相手の機器の電源が入っていますか?  
確認④: ケーブルは全て接続されていますか?  
リンク運動(LPT)設定時は UTP 側と光側が両方ともリンク確立の状態にならないとリンクアップしません。
- 確認⑤: 光ケーブルが断線や異常損失を起こしていませんか?  
1心用タイプの SFP は 1.3um 及び 1.5um(または 1.5um 及び 1.6um)の波長帯を用いた光伝送を行いますので、光伝送用以外の波長帯にいても光信号損失発生しない必要はありません。
- 確認⑥: 伝送速度は正常ですか?  
対向機器から信号を受信していない Signal Detect 状態になっています。リンクアップできる状態になっていないため光ポートの状態および設定、光ケーブルの接続状態を確認下さい。
- 確認⑦: 実装している SFP と MC の設定が合っていますか?  
実装している SFP の対応速度と MC の設定速度が (1000M/100M) をご確認下さい。
- 確認⑧: R-State スイッチが OFF になっていますか?  
R-State ON 時はリモート側の状態を LED に出力します。

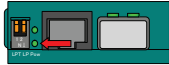
#### 【STATUS LED が点灯しない(R-State OFF 時)】

確認①: 電源は正常に入力されていますか?

### 4. 接続状態の確認

#### 電源の確認

添付の AC アダプタを AC コンセントに差込み、DC プラグ本体に接続した状態で、本体表示 LED の「Pow」が緑色に点灯していることを確認して下さい。



#### UTPケーブルの確認

UTP ケーブルを 100/1000BASE-T 対応の機器(パナコネットワークススイッチングハブ等)に接続し、本体表示 LED の「TX」が点灯(もしくは点滅)していることを確認して下さい。



※LPT を申し接続されている装置の電源が入っていない場合には確認できません。  
※LPT 設定状態時は、対向側のメディアコンバータ及びそれぞれ UTP で接続した機器全ての電源が入ると、且つ正常に動作していないと確認できません。  
※「R.State」スイッチを OFF にして確認して下さい。  
※本体表示 LED の「TX」/STATUS で速度及びモードを確認して下さい(上面 LED は緑固定です)。

- 「TX」緑点灯……………100M全二重
- 「TX」点灯、「STATUS」点灯……………100M全二重
- 「TX」点灯、「STATUS」点滅……………100M半二重

#### 光ケーブルの確認

光側対向機器と光ファイバを接続した状態で本体表示 LED の「OPT」が点灯(もしくは点滅)していることを確認して下さい。



※LPT を申し接続されている装置の電源が入っていない場合には確認できません。  
※LPT 設定状態時は、対向側のメディアコンバータ及びそれぞれ UTP で接続した機器全ての電源が入ると、且つ正常に動作していないと確認できません。  
※「R.State」スイッチを OFF にして確認して下さい。  
※「OPT」LED は 1000M 時に緑、100M 時に橙で点灯(もしくは点滅)します(上面 LED は緑固定です)。

### 5. SW の設定及び注意

#### SW の設定

SW の設定は、精密ドライバー(マイナス)やシャープペン先等の細いものを用いて SW レバーを押下げ(または押し上げ)して下さい。  
※前面 SW は下向きで ON となります。  
※設定変更時 SW 以外には不用意に SW に触れないように注意して下さい。  
※別売のラックオプション(DNHD12E 等)に実装して、オプション SW の「SNMP ユニット」から設定を行っている場合には、手動による SW の設定が有効になりません(LP および R.State) SW は有効です。



#### 確認①: UTP ポートが 100M/Half 動作になっていませんか?

UTP ポートが 100M/Half 動作になっている場合、STATUS LED が点滅になります。UTP で接続している機器を Autonegotiation 設定にするか、本装置を強制的に 100M(Full) に設定し、本装置、対向側ともに 100M/F でのリンクアップを可能に設定して下さい。

#### 確認②: LP スイッチが ON になっていませんか?

LP スイッチ ON 時はルーバック試験が有効になります。LP スイッチを OFF に戻して下さい。  
ルーバック試験結果を表示し、LP スイッチを OFF に戻して下さい。

#### 【STATUS LED が点滅する(R-State ON 時)】

- 確認①: 光ポートはリンクアップしていますか?  
光ポートがリンクアップしていない状態でも「R.State」スイッチが ON になっていると、リモート側 MC の状態取得ができません(LPT が有効時は伝送路が繋がっていないリンクダウン(Signal Detect)でも状態取得可能です)。
- 確認②: 光側対向 MC は接続済み MC ですか?  
両製品および 6700E のみでリモート監視は可能です。他製品接続時は点滅になります。
- 確認③: OAM スイッチが OFF になっていませんか?  
リモート監視機能は OAM 機能が有効時のみです。OAM スイッチを有効にして下さい。
- 確認④: LP スイッチが ON になっていませんか?  
LP スイッチ ON 時はルーバック試験が有効になります。LP スイッチを OFF に戻さない場合、STATUS LED はルーバック試験結果を表示し、LP スイッチを OFF に戻して下さい。

#### 【ルーバック試験ができない】

- 確認①: 光側対向 MC はルーバック試験対象 MC ですか?  
光側対向機器が同製品および 6700E のみでルーバック試験はできません。また、本装置及び光側対向機器の両方リンクアップしているルーバック試験はできません(LPT 有効時は伝送路が繋がっていないリンクダウン(Signal Detect)でも試験可能です)。
- 確認②: OAM スイッチが OFF になっていませんか?  
ルーバック試験機能は OAM 機能が有効時のみ可能です。OAM スイッチを有効にして下さい。

#### 【LED の表示が設定と合っていない】

- 確認①: SNMP で設定していませんか?  
ラックオプション(DNHD12E 等)に実装してご使用されている場合、SNMP モジュールからの設定が有効になっていると、その設定が動作します。
- 確認②: ローカル側 MC が設定されていますか?  
ローカル側機器をラックオプション(DNHD12E 等)に実装してご使用されている場合、ローカル側の SNMP モジュールからローカル側 MC を通じて本装置の設定が可能となります。本装置をサブラックに実装時には設定状態(ハード SW/SNMP モジュールからの設定、ローカル側 MC からの設定)を確認する必要があります(詳しくは SNMP ユニットの取扱説明書を参照して下さい)。ラックオプション実装時には、スイッチの設定を変更することでスイッチ設定動作の動作に戻すことが可能です。
- 確認③: LED の表示モードがリモート側 MC 状態表示の設定になっていませんか?  
「R.State」スイッチが ON になっていると表示 LED はリモート側 MC の状態を表示します。

#### 【設定が変更できない】

- 確認①: SNMP で設定していませんか?  
ラックオプション(DNHD12E 等)に実装してご使用されている場合、SNMP モジュールからの設定が有効になっている場合や、対向機器の設定変更の場合は、本装置の設定スイッチを切替えても設定は反映されません。SNMP モジュール側で設定を解除して下さい(詳しくは SNMP ユニットの取扱説明書を参照して下さい)。

#### 【特定のバケットだけ通信できない】

確認①: 10001Byte以上または4501Byte以上のバケットはありますか?  
本製品は 1000M 動作時のバケットは 10000Byte 迄、100M 動作時のバケットは 4500Byte 迄となっています。ショートバケット(8Byte 以下)や 10001Byte 以上または 4501Byte 以上のロングバケットは正常に伝送できない場合がありますので、ご使用のバケット長をご確認ください。

### 環境対応 100/1000BASE-T/X SFP 対応 リモート監視機能付メディアコンバータ DN1700E 保証書

|                         |                    |
|-------------------------|--------------------|
| ロットNo. S/N<br>(印字機にて記録) |                    |
| お客様(御社)名                |                    |
| お名前(ご担当担当者名)            |                    |
| ご住所                     |                    |
| 〒 F A X                 |                    |
| ご購入日                    | 年月日                |
| 保証期間                    | ご購入日より5年間(センドバック式) |
| 販売店                     |                    |
| 販売所                     |                    |
| 店 T E L                 |                    |
| 備考                      |                    |

\*保証条件  
保証期間内であっても、次の場合は保証外となりますのでご了承下さい。  
1. 取扱説明書に記載の使用法や注意事項等反り取り扱い及び不当な修理や改造によって生じた故障及び損傷  
2. ご購入後の輸送、移動中の落下等、取り扱いが不適当なために生じた故障及び損傷  
3. 火災、地震、風水害、落着、その他天災地災及び指定外の使用電圧による故障及び損傷

『営業窓口』大電株式会社 ネットワーク機器部 営業課  
コールセンター(テリカサダ)窓口 ☎ 0120-588-545 (携帯・PHS にも対応)  
e-mail: comninfo@dyden.co.jp  
東京 〒113-0033 東京都文京区本郷 2-3-9 ツインビー-御茶ノ水3階  
TEL (03)5884-2100(代表)  
名古屋 〒460-0002 愛知県名古屋市中区丸の内 1-15-20 丸の内ビルディング4階  
TEL (052)211-1888(代表)  
大阪 〒541-0044 大阪府大阪市中央区北浜 4-7-28 住友ビルディング2号館1階  
TEL (06)6229-3335(代表)  
九州 〒849-0124 佐賀県三養基県庁 2100-19  
TEL (0952)52-8846(代表)